

すべて コンテスト インタビュー 東北支援 写真講座 ワークショップ

フォトエッセンス 入門・写真マスター講座 (2-2) ～露出による違いと適正露出



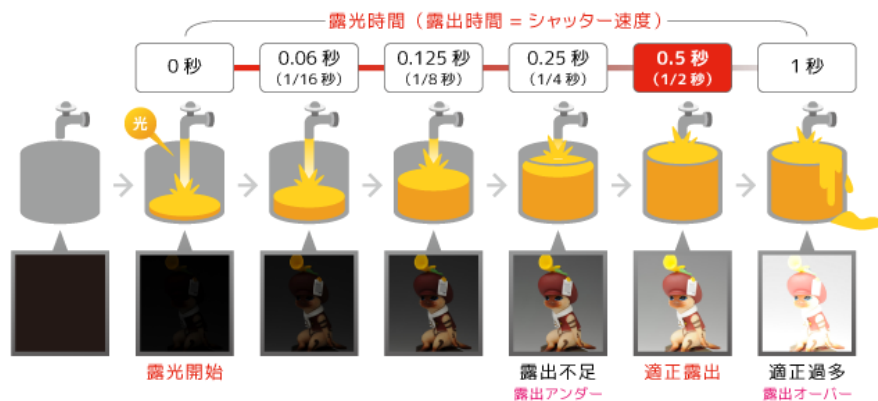
Posted by Velvia

2013年7月2日 公開

露出不足と、露出過多

露出については、前節「[露出を知る](#)」を参照ください。

前節でご紹介したように、露出は撮像センサーというバケツに、光を貯めていくことに似ています。光が少なければ、暗く写り、多いと明るく写ります。



蛇口を開けて（シャッターを開いて）光をバケツに貯める事を、露出（露光）と呼び、光を注いでいる時間が露光時間（シャッター速度）です。そして、調度良い量の光が貯まるまで光を注いだ露出を、適正露出と呼びます。

上の図では、シャッター速度 0.5秒（1/2秒）が適正露出となります。

具体的な、露出不足と、露出過多を見てみましょう。



露出不足とは、シャッター速度が短すぎるなどして、撮像センサーが受ける光量が不足して、露出量が足りないために「**写真が意図する明るさよりも、暗くなってしまうこと**」を言います。

これを、専門的には「**露出不足**」や「**露出アンダー**」と呼びます。

crapaca Photo Essence
フォト エッセンス

入門・写真マスター講座編

はじめてのカメラ購入編

1. カメラの種類と特徴を知る
2. カメラ購入ガイド（コンデジ編）
3. カメラ購入ガイド（ミラーレス編）
4. カメラ購入ガイド（一眼レフ編）
5. 三脚を用意しよう

入門・カメラの基礎知識

1. 露出（露光）を知る
2. 露出による違いと適正露出
3. 光量と ISO 感度
4. 写真がブレる理由
5. 絞りと露出の関係（レンズの F 値）
6. 露出の復習と自動露出 (AE)

入門・カメラの基本操作編

1. 撮影モードの鉄則
2. ISO 感度を固定する
3. マニュアル撮影と、露出計の見方
4. シャッター優先AEで、動体を撮る
5. 自動露出で、露出補正を使う

入門・カメラを操る編

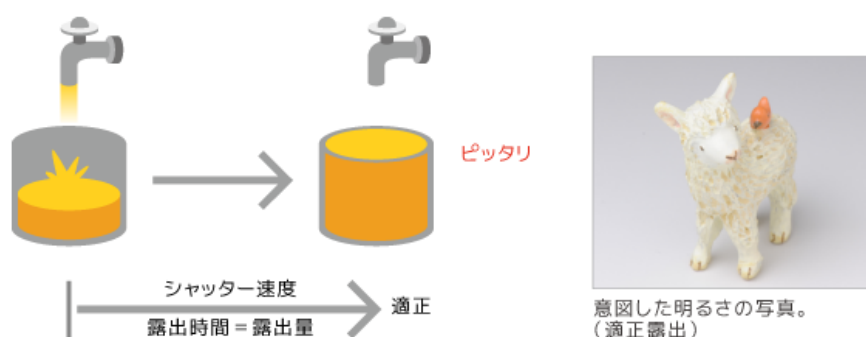
1. 焦点距離と、画角を知る
2. 使用するカメラで変わる、画角
3. ボケを操る（被写界深度）



露出過多とは、シャッター速度が長すぎるなどして、撮像センサーが受ける光が多すぎて、露出量が多すぎたために「**写真が意図する明るさよりも、明るくなってしまうこと**」を言います。

これを、専門的には「**露出過多**」や「**露出オーバー**」と呼びます。

適正露出を正しく理解する



上記のとおり、露出不足あるいは露出過多は、**写真が意図する明るさ** よりも **露出しすぎ** または **露出させすぎ** という状態を言いますが、一方で写真が意図する明るさどおりのことを **適正露出** と言います。

しかし、適正な露出は、撮影者の意図によって異なります

上記の「露出不足・露出過多・適正露出」を考えたとき、どうすれば適正露出で撮影できるようにカメラを操作するかということを考えてしまいがちですが、「**適正露出はコレである**」といった**明確な定義は実はありません**。

次の写真を見比べてみてください。



露出を抑えめ（露出アンダー寄り）



露出を多め（露出オーバー寄り）

左の写真は、シャッター速度を短くして露出を少なくしたため、やや暗くなり、レザー表面の色も落ち着いたオレンジ色ですが、一方で右の写真は、シャッター速度を長くして露出を多ましたため、やや明るくなり、レザーの表面はイエローに近い色です。

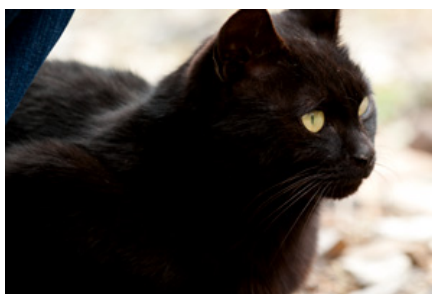
白トビ、黒トビは絶対悪ではない

露出をオーバーにして撮影すると、写真は色を失い、「**完全な白色**」になることがあります。これを「**白トビ**」と言います。逆に、露出が不足すると、暗くなりすぎて「**完全な黒**」になることがあります。これを「**黒ツブレ**」と言います。

写真は、白トビまたは黒ツブレすると微妙な色を表現できなくなるので、それ自体が悪であり、白トビや黒ツブレがある写真は失敗と言われるケースがあります。しかし、実際には逆光だったり、被写体が黒い場合はそれらを許容しなければいけません。



空の色が真っ白になって「白トビ」している。
しかし、強い光で輝く花びらが表現する意図どおりで、適正露出と言って良い。



猫の表面が真っ黒になって「黒ツブレ」している。
しかし、黒猫の黒さ、毛並みが表現する意図どおりで適正露出と言って良い。

わざと白トビさせたり、黒ツブレさせるのも重要で必要な撮影テクニックです。

つまり、一様に白トビや黒ツブレを恐れるようなことはせず、あくまで被写体に対して適正露出を考えることが重要なのです。



白トビを無くすため、露出アンダーにして白トビは無くなったが、「光を受けて輝く花びらがくすんでしまい」、写真として失敗作となった。



黒ツブレを無くすため、露出オーバーについて黒ツブレは無くなったが、「本来黒いはずの猫の印象が変わってしまい」、失敗作となった。

[目次へ](#)[前の記事へ](#)[「光量と ISO 感度」へ続く](#)

[会員ログイン](#)